

クロチアニジン (案)

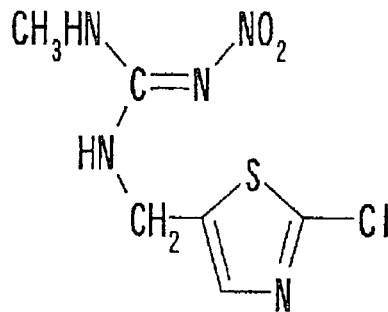
1. 品目名：クロチアニジン (clothianidin)

2. 用途：殺虫剤

ネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。

3. 化学名：(E)-1-(2-chloro-1, 3-thiazol-5-ylmethyl)-3-methyl-2-nitroguanidine(IUPAC)

4. 構造式及び物性



分子式	$C_6H_8ClN_5O_2S$
分子量	249.68
水溶解度	0.327 g/L (20°C)
分配係数	logPow = 0.7 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 イネトヨイムシ	4000倍	60～150 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	ウンカ類 カメシ類 イネトヨイムシ	1000倍	25L/10a				
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ フタホトコヤカ	200倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L)	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	イネトヨイムシ イネズヅウムシ	200～ 400倍	1箱当たり 500mL				
きゅうり	シメキイロアザミウマ アブラムシ類 コジラミ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
メロン	アブラムシ類	4000倍					
	コジラミ類 シメキイロアザミウマ	2000～ 4000倍					
	トマトハモグリバエ	2000倍					
すいか	アブラムシ類	4000倍	2000倍				4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	シメキイロアザミウマ ウリハムシ						

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数		
なす	シシトウアザミマ ハモグリハエ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)		
	アブラムシ類 マハモグリハエ コジラミ類	2000～ 4000倍					4回以内 (鉢上時の株元処理、育苗期後半の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)		
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類	2000倍					3回以内	2回以内	3回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	ハモグリハエ類								3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)
ピーマン	アブラムシ類 コジラミ類	2000～ 4000倍		2回以内	2回以内		3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)		
	シシトウアザミマ	2000倍					3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)		
だいこん	アブラムシ類	2000～ 4000倍		2回以内	2回以内		3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)		
レタス	ハモグリハエ	2000倍		2回以内	2回以内		3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)		
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	2回以内	2回以内	2回以内	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)			
	アムシ コカ	2000倍				3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)			

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネギアザミヤ ネギハモグリバエ	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内 (植付時の植溝処理は1回以内、株元散布は2回以内)
ばれいしょ	アブラムシ類	4000倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
	テントウムシダマシ類	1000倍					4回以内 (定植前の苗床灌注は1回以内、散布は3回以内)
てんさい	カメコハムシ テントウムシダマシ アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	1回	苗床灌注	4回以内 (定植前の苗床灌注は1回以内、散布は3回以内)
	テントウムシダマシ テントウムシハムシ カメコハムシ	100～ 200倍	1L/ペーパー ポット1冊 (3L/m ²)	定植前			
豆類 (種実、ただし、だいず、らっかせいを除く)	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
だいず	マメシクイガ	2000倍					
	アブラムシ類 カメコハムシ フタスジヒメハムシ	2000～ 4000倍					
かぼちゃ	アブラムシ類						
にがうり	ネギアザミヤ						
チゲンサイ	アブラムシ類			収穫14日前まで			

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
みょうが (花穂)	ナス科カバクラムシ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布、但し 花穂の発生期には マルチ被覆により 散布液が直接 花穂に飛散 しない状態 で使用する	3回以内	
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあっては 開花期終了まで				
みずな	アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫7日前 まで		散布		4回以内 (は種時の 散布、育苗期 の株元処理 及び定植時 の植穴処理 土壌混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)
オクラ				収穫前日 まで				
れんこん	クワイビレアブラムシ			収穫7日前 まで				
えだまめ	アブラムシ類 カメムシ類			収穫3日前 まで				
ブロッコリー	アオムシ	2000倍		2000～ 4000倍		収穫3日前 まで		3回以内
		アブラムシ類						
にら	ネアザミウマ アブラムシ類							

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
非結球レタス	アブラムシ類	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内		3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)
	ナメタリハエ	2000倍					
アスパラガス	アブラムシ類 ネギアザミウマ ゾウムシカガハムシ	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
りんご	カメムシ類 キンモンホリガ ギンモンホリガ シクイムシ類 アブラムシ類 コカバラムシ類 リンゴワタムシ ケムシ類			収穫前日まで			
なし	シクイムシ類 アブラムシ類 コカバラムシ類 カメムシ類 ケムシ類			3回以内			
すもも	アブラムシ類	4000倍		収穫3日前まで			
もも	アブラムシ類 モモホリガ シクイムシ類 カメムシ類	2000～4000倍		収穫7日前まで			
	コガネムシ類	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
おうとう	サトウシヨウジヨウハエ カメシ類	2000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
うめ	ケムシ類	2000~ 4000倍		収穫7日前まで	3回以内		3回以内	散布
	アブラムシ類 カメシ類			収穫前日まで				
ぶどう	コカカガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フテンヒメヨコバイ	2000倍		収穫7日前まで	3回以内			
かんきつ (みかんを除く)	ミカンバエ ミカンキジラミ	2000倍	100mL/樹	収穫150日前まで	1回	樹幹 散布		
	みかん	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 ケシキスイ類 コアホナムグリ ツノウムシ コカカガラムシ類 ゴマダラカミリ カメシ類 アゲハ類 アカマカカガラムシ					2000~ 4000倍	
かんきつ (苗木)		ミカンバエ ミカンキジラミ	2000倍	10~ 100mL/樹	春芽・夏芽 又は秋芽 の発生前	3回以内	散布	3回以内
	かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ ゴマダラカミリ	20倍					
かき	キノヒメヨコバイ	4000倍	200~700 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ コカカガラムシ類 カキノハタムシガ カメシ類	2000~ 4000倍						

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
マンゴー	アザミヤ類 コカカラムシ類	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
いちじく	アザミヤ類			収穫3日前まで			
ネクタリン	アブラムシ類 モモハグサ類 シクイムシ類 カメムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで			
	コカネムシ類						
あんず	アブラムシ類	4000 倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで			
とうがん	シキイロアザミヤ	2000 倍		200～400 L/10a			
食用へちま	アブラムシ類		2000 倍				
パパイヤ	ナガカカラムシ ヒラタカカラムシ	2000～ 4000 倍	200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回	1回	
茶	チャノキイロアザミヤ チャノミドリヒメコバエ チャノホカ	4000 倍					
		コミカンアブラムシ	4000 倍				

(2) 1.0%クロチアニジン1キロ粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (但し本田期は3回以内)

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では3回以内)
	カメシ類	3~4kg/10a				
稲 (箱育苗)	イネトヨムシ イネズグムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ~ 移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する	4回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散布 は3回以内)
きゅうり	コジラミ類 アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1g/株	育苗期後半		株元処理	
	コジラミ類 アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1~2g/株 1~2g/株 2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	すいか	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ				1~2g/株
メロン	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株				育苗期後半
	コジラミ類 アブラムシ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	シメキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2g/株				

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
なす	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)	
	アブラムシ類 マハモグリハエ コジラミ類		定植時		植穴処理 土壌混和		
トマト ミニトマト		1~2g/株				株元処理	4回以内 (鉢上時の株元処理、育苗期後半の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半 鉢上時		株元処理		
	トマトハモグリハエ	2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
だいこん	アブラムシ類	3~6kg/10a	は種時		播溝処理 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)	
レタス		0.5g/株	育苗期後半		株元処理	3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)	
非結球レタス							
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時		覆土後セル 成型育苗トレイの上から 散布する	3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	
	ネキリムシ類 コガ アオムシ ハイマダラノメイガ	0.5g/株	育苗期後半		株元処理		
	アブラムシ類	1g/株	定植時	植穴処理 土壌混和			
	ハイマダラノメイガ	1~2g/株					
	コガ アオムシ	2g/株					

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類 ハイマダラノメカイ	0.25g/株	は種時	1回	覆土後セル 成型育苗トレイ の上から 散布する	4回以内 (は種時の散布、 育苗期後半の株 元処理及び定植 時の土壌混和は 合計1回以内、散 布は3回以内)
	コガ アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コガ アオムシ	2g/株				
ねぎ (露地栽培)	ネギアザミマ ネギハモグリバエ	6kg/10a	植付時	2回以内	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の植溝 処理は1回以内、 株元散布は 2回以内)
		3~6kg/10a	収穫21日前 まで		株元散布	
ばれいしょ	アブラムシ類	6kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以内)
かんしょ	コガムシ類				作条処理 土壌混和	
		アブラムシ類	育苗期	株元処理		
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散 布は2回以内)。
			定植時		植穴処理 土壌混和	
いちご						1回

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
かんきつ (苗圃)	ミカンハダカ	10~20g/樹	育苗期	3回以内	株元散布	3回以内
げっきつ	ミカンキジラミ	30~40g/株	発生初期	4回以内	生育期 株元処理	4回以内
さとうきび	ハリガネシ類	4~6kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	1回
れんこん	クワイビレアブラムシ	6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	湛水散布	3回以内
わけぎ (露地栽培) あさつき (露地栽培)	ネギアザミウマ ネギハダカ	3~6kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	株元散布	2回以内

(4) 0.15%クロチアニジン粉剤 DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は 1回以内、本田では 3回以内)
	付コ類	4kg/10a				
	イネノオイシ フタホコヤカ	3kg/10a				
だいず	アブラムシ類 カメシ類 フラスビヒメムシ	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(5) 1.5%クロチアニジン箱粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマク ^ロ ヨコバ ^イ イネズヅウムシ イネト ^ロ イムシ ニカメイチュウ フタホ ^レ コヤガ イネヒメハメグ ^リ ハ ^エ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では3回以内)

(6) 0.50%クロチアニジンH粉剤DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	カメシ類 ウカ類 ツマク ^ロ ヨコバ ^イ イコ ^ノ 類 イネト ^ム シ ニカメイチュウ フタホ ^レ コヤガ	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では3回以内)
	イネト ^ロ イムシ	3kg/10a				
だいず	マシク ^イ ガ	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内
	アブラムシ類 カメシ類 フタスジ ^ヒ ハムシ	3～4kg/10a				

(7) 20.0%クロチアニジン水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬 の総使用回数
稲	什ゴ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	5000倍	60~150 L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布 は1回以内、 本田では3回 以内)
	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	90倍	3L/10a			空中散布	
	ウカ類 カメシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる 散布	
		1250倍	25L/10a			散布	
だいず	アブラムシ類 カメシ類 マメシクイガ	2500~ 5000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類 カメシ類	24倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる 散布	
ばれいしょ	アブラムシ類	5000倍	100~300 L/10a	収穫7日前 まで		散布	4回以内 (植付時の土 壌混和は1回 以内、植付後 では3回以内)

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ クロチアニジン

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、CHEM ELUT™ カラム、Sep-Pak®アルミナ(N)及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフにより定量する。

検出限界 0.002~0.05ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量^{注1)}は0.134, 0.104 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。^{注3)}

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.048, 0.023 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~22日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.07, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液

を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.14, 0.12 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 0.5%粒剤を計 3 回散布 (4kg/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.01, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 20.0%フロアブルの 5,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.12, 0.13 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (3 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 20.0%フロアブルの 24 倍希釈液を計 3 又は 4 回 RCH 散布 (0.8L/10a) したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.04, 0.16, 0.16 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 200 倍希釈液を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、並びに 16.0%水溶液の 1,000 倍希釈液を 3 回散布 (25L/10a) したところ、散布後 7~28 日の最大残留量は 0.10, 0.07 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2.5%箱粒剤を 50g/箱及び 20%フロアブル剤の 1250 倍希釈液を 3 回散布 (25L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.15, 0.21 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 16.0%水溶剤の 4,000 倍希釈液を計 3 回散布 (150 L/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.11, 0.132 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2.5%箱粒剤を 50g/箱 (移植当日育苗施用)、及び 1.0%1 キロ粒剤を計 3 回散布 (1kg/10a) したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.118, 0.176 ppm であった。ただし、この試験

は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{注2）}～28日の最大残留量は0.12, 0.142 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.72, 0.26 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.28, 2.75 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.18, 0.78 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.17, 2.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.12, 1.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（3例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布（0.8L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.81, 2.57, 2.28 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。